

ディスレクシア (Dyslexia) とは.....

知的に問題がなく、聴覚、視覚の知覚的機能は正常なのに、読み書きに関して特徴のあるつまづきや学習の困難を示す症状のことをいいます。

EDGEは.....

ディスレクシアの正しい認識の普及と教育的な支援を目的とした特定非営利活動法人 (NPO) として、2001年10月に認証・設立され、活動しています。

## 独自の読字法

岐阜県立関特別支援学校 教諭 神山 忠

私は、文字を読むことが苦手です。でも、何らかの援助、方策を取れば理解することができます。今はこのことを公表することができますが、小さい頃から周囲に理解されず長い間苦しんできました。現在は、自分なりの対処法(独自の読字法)を駆使することで何とか生活しています。そんな私が、どのような作戦(独自の読字法)を立てて来たのかを紹介します。

### ①教科書を横書き、分かち書き、行間広めに書き直す。

(小中学校時代)

時間がかかりましたが、音読はしやすくなりました。しかし、時間がかかるのと、自分が書いた字

が読みづらくて毎回行うことはできませんでした。今は、仕事で原稿を読まなくてはならない時などは、ワープロで、丸ゴシックで、分かち書きで打ち直しています。

### ②文字の大きさや色を使い分けて意味のある言葉のまとまりが分かるように書き換える。(中高時代)

提出する必要がある文章(作文など)では、分かち書きで書くとき注意を受けます。しかし、書いた文章を読み返すことができないので、編み出した作戦で、助詞などは小さく書き、名詞などは大きく書きまとまりや区切りが分かるように書きました。

また、掲示物や調べ学習の発表などで書く時は、色を変えてまと



岐阜県立関特別支援学校 教諭  
神山 忠

まりや区切りが分かるようにしていました。

### ③スリットで他の行を隠す。


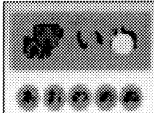

(小学校から)

これは今でも行っています。文字の大きさに合わせて厚紙を一行分だけ見えるように切り抜いたスリットを当てて、読むべく文字を見やすくしています。最近、行

**長年の実践と研究から生まれた**  
**いばらきマナビィ・ネット もじ・よみかたシリーズ**

「クルッとまわって、地下室つりばりチー(g)」など、イラストや耳からのヒントを活用し、楽しみながらアルファベットを身につけます。  
t+ea / p+ea / tea+ch / pea+ch  
などの音の足し算は、英語のつづりの規則性に気づきをもたらします。

HPでは、各種デジタル教材を無料でご利用いただけます!


一括採用の場合は学校納入定価でもご購入いただけます。

**いばらきマナビィ・ネット**  
〒305-0051 茨城県つくば市二の宮 4-8-3 1-404  
(特)リヴォルヴ学校教育研究所内 TEL & FAX 029-856-8143  
<http://www.manabee-net.org>

**A B C 英語** れんしゅうちよう  
よめる かける  
A4版 価格 七〇〇円(税込)



**ひらがな** えほん 1  
価格 七九八円(税込)



NHK「おはよう日本」他、全国各紙でも取り上げられました!

「よ」など、形の似た文字ごとに、文字形を言葉のリズムにのせて練習します。

キャラクター達が繰り広げるテンポのよい物語を通して、ひらがなの読みに習熟。言葉への興味を喚起し、読む力を伸ばさせます。

しっぽの「し」など、シンプルな絵の中で、文字の基本形を身につけます。それぞれの絵には方向性をもたせて、鏡文字をふせぎます。さらに、「みじかくよこせん、よ(あしくる)」

もじのかたちをとらえるための  
**ひらがなれんしゅうちよう**  
A4版 価格 六〇〇円(税込)

の下半分だけ定規等で隠すだけでも見やすくなっています。

④フローチャート式に書く

(中学校から)

文字が並んでいると分かりづら  
いですが、フローチャートは理解  
しやすいです。そこで、自分しか  
見ないノートはフローチャート式  
に書き、要点を分かりやすくして  
います。本当は、どの教科のノー  
トもこう書きたいのですが…。

⑤板書は撮影・講義は録音・デジ  
タルテキストは読み上げソフト  
(大学から)

大学では、黒板をノートに書き  
写しきれないのでカメラで撮影し  
て後で理解していました。講義も一  
度では理解しきれなかったので、カ  
セットテープに録音しました。そし  
て、パソコンを手にしてからは、デ  
ジタルテキストを読み上げソフト  
で読ませて理解しています。今は、  
携帯電話のカメラ機能と音声メモ  
機能を使って板書を撮ったり音声

録音をしたりして対応しています。  
さて、これらの作戦、今の学校  
現場でどれだけ許してもらえるで  
しょうね？ 今、私には許されるこ  
とで、教員としてやれています。

そんな私は、一人一人の困り感を  
察知して、心の動きに配慮した支  
援が自然にできる社会を望んでい  
ます。

(尚、私の生い立ちをまとめたレポート  
「私の場合」をダウンロードできます。)

<http://home.wondernet.ne.jp/~aaanet/main/index.html>

## 特別支援教育支援事業発表会を開催

平成 19 年 4 月から全国的に特別  
支援教育の展開が始まろうとして  
います。港区ではこれに先駆け、  
通常学級に在籍する発達障害を  
もった児童生徒への支援を、独自  
の方法で開始しています。浜松町  
の子ども家庭支援センター内に個  
別支援室を設け、保護者からの相  
談を受け、必要に応じて検査を行  
い、学校と連携をとりつつ学習支  
援員を派遣してきました。

この事業は NPO 法人エッジが  
港区より受託して実施していますが、平成 18 年 4 月の学習支援員配  
置開始より 1 年が経過しました。  
全国でも先進的な事例として、事  
業内容の発表会を 5 月 19 日(土)、  
明治学院大学白金キャンパスで開

催いたしました。当日は学習支援  
員、港区教育委員会・小中学校、  
区外の教育関係者、文部科学省よ  
り 100 名を越える方が参加されま  
した。

第 1 部前半は学習支援員派遣事  
業に関して藤堂会長より、これま  
での経緯、個別支援室の主な活動、  
学習支援員派遣事業の仕組み、支  
援員養成の状況、支援員派遣の効  
果、相談業務の状況、NPO が関わ  
る事のメリット、今後の課題につ  
いて報告がありました。

第 1 部後半は派遣中の学習支援  
員 5 名より、3 つのケースについて、  
当初の児童の様子、支援の内容と  
効果・課題について生活面、行動面、  
学習面から報告がありました。



第 2 部は「個別の指導計画」作  
成実践講座として、明治学院大学  
緒方明子教授指導の下、学習支援  
員や小中学校教諭が受講しました。

当日は明治学院大学の学生さんに  
大変お世話になりました。ご参加  
いただいた皆様にはお休みの中を  
ご足労いただきましてありがとう  
ございました。第一部前半の発表  
資料をご入用の方はエッジ事務局  
までご連絡ください。

(文責：内田)

JDDnet  
だより

### JDDnet 第 3 回協議員総会

5 月 26 日に JDDnet 理事会と協議員総会が開催  
され、活動報告、年報の発行、20 年度予算要望の  
取りまとめについて、厚生労働省からの情報提供、  
12 月 2 日に名古屋地区で開催される年次大会の骨  
子などが話し合われました。

発達障害の支援を考える議員連盟総会(会長 尾  
辻秀久元厚生労働大臣)が参議院議員会館にて 5 月  
30 日に開催されました。多くの議員や行政の方に  
出席いただきました。中では、教育再生会議での議

論についての報告がありました。引き続き発達障  
害者支援の進捗状況及び今後の取り組みを厚生労働  
省、文部科学省、内閣府の担当部署の方たちからご  
説明がありました。

緊縮財政の中大きく予算がついたことを感謝する  
とともに、やっと出来上がった大枠の中身の充実に  
私たちとしても力を入れて生きたいと思いました。

(文責 藤堂)

JDDnet の活動については下記をご参照下さい。

<http://jddnet.jp>

# ディレクシアと就職チューター

柴田 章弘

ディレクシアの人々が直面する一番の大きな問題は就労です。最近では教育現場では啓発活動が功を奏したか、だんだん理解が進み、ディレクシアは発達障害の一部として認知されつつあります。ところが、いざ社会に出て、就職をしようとしたら、さまざまな困難に出会います。学校生活でもさんざん戦って、それを卒業したとたんに、社会というもっと厚い壁にぶち当たります。当然自信を失ったり、投げやりになったり、引きこもってしまう人々が出て、不思議はありません。なんとか就職しても、仕事が長続きせずに、転職を繰り返してしまう人々もまれではありませんでした。

ディレクシアの人々の困難は見えにくく、就職支援はほとんどありませんでした。ところが、厚生労働省が重い腰を上げ、発達障害者（ディレクシアも含む）の若者を対象にした支援施策を取ることになりました。遅すぎると声を大にして叫びたかったのですが、これから就職を希望するディレクシアの若者に対し新しい選択肢が増えただけでも、すごい進歩です。

2007年5月末から各ハローワーク（職安）に臨床心理士ら専門の就職チューターが配備されることになりました。そして、若者の発達障害者専門に相談にのってくれるようになります。これはディレクシアなどの発達障害を早期発見して、それぞれの特徴に合わせた援助をし、社会的な自立を促すことを目的にしています。精神論や統計的な数字をいくら並べても、就労希望のディレクシアの人々は救えません。親身になって、まず話を聞いて、個別に対応してくれるだけでも、自分の進路を冷静に考えられます。

今まではディレクシアの若者が仕事を探しにハローワークを訪れても、発達障害を理解しない職員が機械的に仕事を紹介してきました。明らかに本人に不適正な職場を紹介されたので、就業に結びつきませんでした。いくら世の中の景気がよくなり求人が増えても、職が簡単に見つからないディレクシアの若者がいました。労働人口が減少する時代に、能力や意欲がある人々の労働力を眠らせているのは社会にとって大損失でした。

そこで、就職チューターが専門的にディレクシアの若者を理解して、能力が発揮できるような職場を紹介すれば、就職率や職場定着率も上がります。企業にとっては有能な人材を獲得することになるので大いに利益になります。

さらにタックスペイヤーを増やすから国にも恩恵を与えます。みんな丸く治まって、万々歳です。「若者コミュニケーション能力支援者就職プログラム」という形でディレクシアなどの発達障害を支援してくれる仕組みに期待したいものです。今後は中高年の発達障害の人々にも相談窓口が開かれるとさらに安心できます。

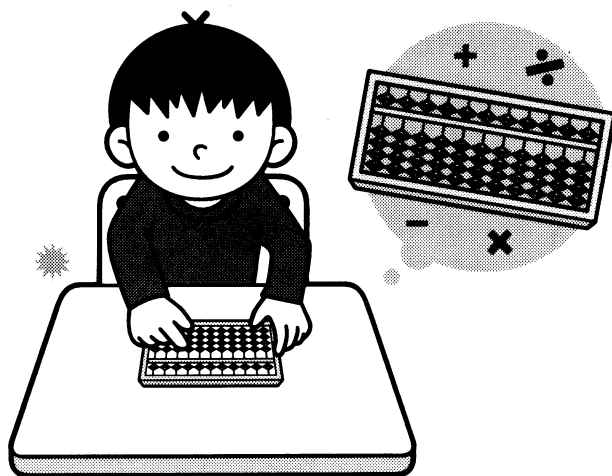


# ディスクレシア塾の教え方 算数

講師 藤本トモエ

私たちは長い間、知性や知能というものを狭い意味で捉えてきましたが、1983年ハーバード大学のハワード・ガードナー教授が発表したマルチプルインテリジェンスの理論によれば、知性は決して単一ではなく複数あるということで、人間に備わっている知性は個々人によって、異なっていることがわかってきました。いわゆるこれまでの学校教育ではただ単に「読み・書き・計算」の能力こそが知性の中身と信じられてきて、またそれらに優れている人こそ、優秀と思われてきましたが、MI理論(マルチプルインテリジェンス)により、「読み・書き・計算」能力以外にも空間的、運動的、音楽的、社交的、内向的、博物学者的知性と知性の種類が多岐に存在していることが判って来たのです。またそのことがひとりひとりの個々人への理解に役立つと言えます。そう考えるとディスクレシアという症状も、単に従来型の学校教育のなかで考えられてきた狭い意味のインテリジェンスの一部が欠けていたということで、そこには問題は全く存在しないことになります。

さて、幼児が始めて出会う抽象の世界が数です。しかしこの抽象の世界にすぐ溶け込むことが出来る子も居れば、なかなか要領を得ない子もいるのが現実です。今までの学校教育の中では40人の知性の異なるプロフィールを持った子どもたちを一斉授業の名の元にある一つの方法でしかも効率よく教えることを重視してきました。しかしながら、その1つのやり方に馴染まない子どもたちが大勢いることを見逃してはいけません。



そこで、今回はそろばんを、数を理解する道具として登場させました。抽象の世界と具体の世界との中間的な存在としてそろばん珠があります。この珠の操作によって、子どもたちは数の持つ抽象的世界を理解する糸口にすることが出来るのです。しかもそろばん珠だけではありません。いろいろな手法、教具を使って、一つのことをいろいろな角度で表現し、理解を助けるのです。このことは決してディスクレシア塾だからやるのではなく、「これからの教育」の最先端の試みが今ここで行われているということなのです。知性は多様、ならば、その知性の有り様にふさわしい方法で子どもたちにアプローチする、これが21世紀型の教育の在り方なのです。と同時に私はこの古くて新しい道具、そろばんを使って、「やれば出来るのだ」「努力は報われる」という自信を子どもたちに伝えられたらと願っています。

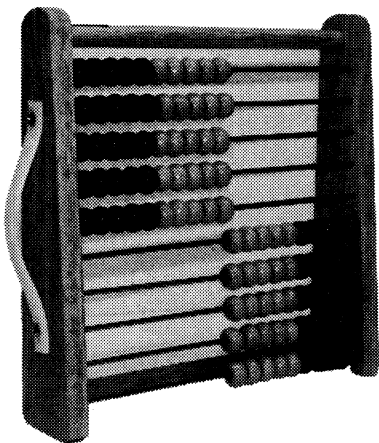
# 算数の苦手なディスレクシア

ディスレクシアのお子さんで算数に苦手感を持つお子さんが少なくありません。「2」という数字の記号と「に」「ふたつ」などの音と「りんごが二つある」という概念が結びつかないという一見算数が苦手と思われる状況は、ディスレクシアの人が、「机」という文字と「つくえ」という音と、「4本足のある上が平たく、上の面を使用してものを置いたり、勉強をしたり、食事をする家具」の三つの事柄が結びつかない国語の問題とは同じ作用です。このような場合、ABACUS100や百だま算盤などの半具体物を使用して音と数を一致させていくことで苦手感を軽減することができます。

また、計算、暗算、九九は得意でも文章題が苦手なディスレクシアの人は数多くい

ます。これは国語力が相当作用しているからです。同じ計算でも+-の記号を使う加算、減算の文章題を例にとると、「バスに〇〇人乗っていました、次のバス停で××人降りて、△△人乗りました、今バスには何人のお客さんが乗っているのでしょうか？」とあると「乗って」というのが「+」で「足し算」、「降りる」というのが「-」で「引き算」という意味につながらないということや、文章題を読むのに時間がかかり、答えはあっているけれどすべての問題を時間内で解くことができないことがあります。このような場合、よく文章題に出てくる計算に影響を与える「増える、減る、加わった」などのキーワードを教えることでずいぶん効率が上がります。(文責 藤堂)

## 知能の発育を考える学習用教材

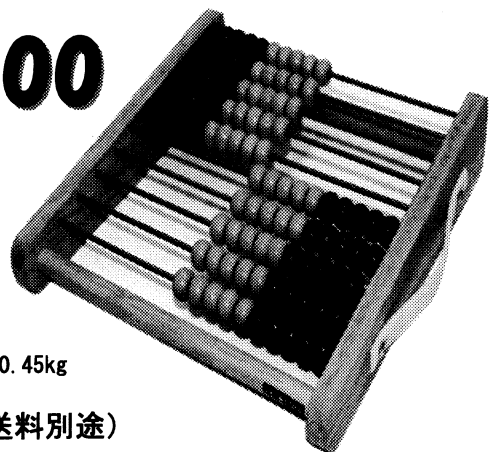


アバカス  
**Abacus 100**

はじめて養う  
「数感覚」

- ・取っ手付き
- ・サイズ：幅25×高さ26cm 重さ0.45kg

税込価格2,625円（送料別途）



アバカス100は、数字を目に見える“玉”に置き換えたもの。子どもが計算の意味を「そういうことか」と理解できます。珠は木珠で色は鮮やかな2色(赤・黄色)で、色の数でも学ぶことが出来ます。

<http://www.soroban.com>  
info@soroban.com

 トモエそろばん

TEL 03-5269-8181  
FAX 03-5269-8182

## EDGE「英語塾」での思い出

木村 綾子

私は約2年前から今年の三月まで、英語塾にボランティアとして参加させていただきました。この塾では、教科書を使い、机に向かってカリカリ勉強!! という事はせず、イギリス大使館のアンジェラ夫人を中心に、生徒がお互いを尊重し合い、助け合いながら、楽しんで英語を学んでいたのが、時間が経つにつれ、子供たちの英語力はめきめきとついていきました。時にはゲームを本気になって一

緒にやったり、クリスマスなどにはイギリス大使館に招かれ、パーティーをしたりと、ボランティアの私たちも、子供たちと一緒に楽しみました。「学ぶ」ことを通して、初めて実際に子供たちと触れ合ったのがこの英語塾でした。

今は学習支援員として現場に入り、子供たちと触れ合っています。「支援員になりたい」と思った、大きなきっかけになったのがこの英語塾でした。関わってくださっ

た、スタッフの皆さん、生徒のみんなに感謝しています。



## DX会との出会い

Albino Kitty

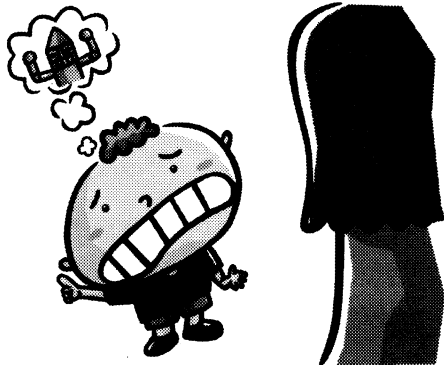
もの心ついてから、ずっと、周りの友人と自分とでは、何かが違うのではないかと違和感がありました。少しずつわかってきたのは、私にはどうやら、他の友だちのように、「ひと」と「ひと」との顔を「区別」して、一度で覚えるということができないということ。もうひとつは、顔の表情がはっきりしないかぎりには、「怒っている」、「笑っている」という感情表現が理解できないということでした。また同時に、私の顔の表情も乏しかったようでした。だから、他のおともだちと会話をしようにも、私の話を友人がどういうふうを受

け止めているのかもわからなく、会話には不安がつきものでした。

また、短期記憶にも課題があるらしく、自分のいいたいこと、書きたいことを相手にわかるように表現するために、適切な言葉を、今まで覚えた単語の中から抽出して、「意味の通った文として表出する過程」に不具合があるために、他の友人以上に時間を要します。その作業は、過度の集中力を要し、会話や文章作成には常に脳のエネルギーをフルに消費して、疲れの原因になっています。また、文脈の中でしか文を理解する能力がないために、相手からの手紙や

メールも時間をかけて何回も読まない、返信がまともにできない私です。学歴には影響を及ぼさなかったものの、読書、作文、感想文、手紙、メール、レポート、論文、すべてに対して意味の通る文にするのも、文を理解するのも、時間のかかる私。このままでどうなるのだろうと思っていた矢先に、アメリカのメーリングで、私の読解力のない現象は広義の「読み書き障害」の一種であり、ディスレクシアだと知ったのでした。

そして、昨年暮れに、日本でも当事者のコミュニティ DX会がたちあげられたことをインターネットで知りました。国内の会。DX会との出会い。それは、灼熱の砂漠の中を、方位磁石を持たずに歩いていて、オアシスに出会えたようなものでした。一口にディスレクシアといってもそれぞれに抱えている課題は違うけれど、将来的に、みんなで学校を作れると最高ですね!





## LSAフォローアップ研修から

事務局 柴田 章弘

LSAフォローアップ研修は港区立子ども家庭支援センター2階「地域活動室」で3月26日から4日間行われた。実施されたのは「行動と社会性」、「国語の教材と指導」、「算数の教材と指導」、「英語の教材と指導」「LD疑似体験ができるようになる」だった。「教わる」と「教える」のはこんなに違うものかを痛いほど体験させていただいた。私が受講したのは「LD疑似体験ができるようになる」だった。受講生側にいるときは簡

単に感じられことも、講師側になると勝手に違い、頭でわかっていても、身体が動かない。さんざん理論を聞き、理解したつもりではあった。ところが相手にLDで苦しんでいる人々の疑似体験してもらおうと、準備をして臨んできたが、受講生側の反応は期待とはほど遠いものだった。相手に旨く伝わらない、「もどかしさ」をここでもう一度味わうことになってしまった。この「もどかしさ」こそが、一番の大きな収穫であった。

「受講生」としては簡単に受け流すことも、「講師」として相手に伝えるときは困難なことを思い知らされた。常に勉強は必要だ。

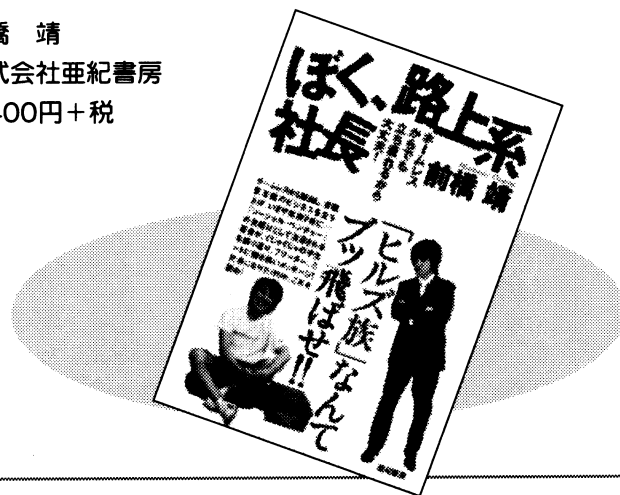


## ぼく、路上系社長 ホームレスからでもたちなおれるから大丈夫!

一度はホームレスになった著者は、努力と奮闘後、求職支援会社を作り、今や「ソーシャル・ベンチャー」の先駆者です。

この本の中に二箇所、「読み書き」が苦手で、困った話があります。それを持ち前の明るさと人当たりの良さで乗り切る場面があります。「読み書き」が苦手でもなんとかなる。勇気が出てくる一冊です。

著者：前橋 靖  
出版社：株式会社亜紀書房  
値段：1,400円+税



## EDGE 活動報告と予定

- 5月1日～6日 横浜赤レンガ倉庫絵画展
- 5月7日 DX塾開始
- 5月19日 特別支援教育支援事業発表会
- 5月26日 JDDネット協議員総会
- 5月30日 議連総会
- 6月16日 第12回DX会
- 7月6日 東京都・東京都発達支援センター共催講演会  
「ディスレクシアについて」
- 7月27～29日 大阪・日本発達性ディスレクシア研究会



## 異なる言語における読みとディスレクシア（読み障害）

### 第2回 理研脳科学総合研究センター・オックスフォード神戸セミナー国際シンポジウム

4月16日から18日まで神戸の六甲で国際シンポジウムが開催された。最近の遺伝子学、神経病理学、生理学、脳イメージ学などの研究によれば、発達性ディスレクシアは、基本的な脳機能である聴覚、視覚、運動神経の発達に障害があるのが原因とされている。しかし異なる言語では困難さも違う。

これまでにアルファベット圏におけるディスレクシアの研究は相当進んでいるが、日本や中国など

表意文字である漢字を使う言語圏におけるディスレクシアの研究はなかなか進んでいないのが現状である。3年前に開催された第1回のシンポジウムでは日本語の構造や特殊性などについて論議がなされたが、今回は主に生化学や脳科学的なアプローチに始まり、同じ漢字を使う中国、台湾、香港と日本などでもディスレクシアの出方は違うことが共有できた。低学年における読みの取り掛かりがアルファベットによるピンインであ

る中国本土、独特の読みの表記を作成している台湾、はじめから見た目には難しいが意味的には親密度の高い漢字（例えば媽媽-お母さん）をマルチセンソリーなアプローチで教えている香港、そしてひらがな、カタカナと多種多様な読み方をする漢字を使用している日本との対比が大変面白かった。7月始めには香港へ視察に行くので次号ではそのご報告をする。

（文責：藤堂）

## 愛をはこぶ人キャンペーン

「愛をはこぶ人キャンペーン」では、今年も5月1日から6日まで横浜赤レンガ倉庫で開催された「横浜アートフェア2007」に参加しました。今年は会場の一角にディスレクシアの啓発コーナーを設置しました。お蔭様でたくさんの方にご来場いただき、無事終了できました。会期中には上野先生ご夫妻が来場され、雑誌「暮らしと健康」の取材も受けました。

会場での印象として、若い人たちの割合が多く、子供連れのご夫婦、カップル、お一人でこられた

方それぞれが、丹念にキャンペーンの啓発コーナーをご覧になっていました。絵画展を含めて1時間あまり会場にいる人がほとんどでした。ディスレクシアについてはじめて知る人や真剣に質問される方も多く、今までのソーブさんの作品といくぶん違ったイメージの新作も好評でした。特に啓発コーナーを見た後にご覧になるソーブさんの絵は、心の深いところが伝わり、見る人に感動を呼ぶのかもしれない。

「愛をはこぶ人キャンペーン」では秋のソーブさん来日の各種イベントの準備が始まります。

また、来年もゴールデンウィークに赤レンガ倉庫で「アートフェア2008」の開催が予定されています。キャンペーンにスタッフやボランティアとして参加される方も募集しています。みなさまのご連絡をお待ちしています。

<http://www.aiwohakobu.jp>  
e-mail: [mail@aiwohakobu.jp](mailto:mail@aiwohakobu.jp)

（文責 藪）



Report from the EDGE - 第14号 -

2007年6月25日発行

発行者 NPO法人EDGE

発行責任者 藤堂栄子 東京都港区浜松町1-20-2  
村瀬ビル3F

Tel.03-6240-0670・0672 Fax.03-6240-0671

編集 NPO法人EDGE事務局 柴田章弘

印刷 株式会社 信英堂

<http://www.npo-edge.jp>

[http://blog.livedoor.jp/npo\\_egde/](http://blog.livedoor.jp/npo_egde/)

[email:info@npo-edge.jp](mailto:email:info@npo-edge.jp)